

## 火災対策

### 初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

#### 1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

#### 2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

#### 火元別初期消火のコツ

##### 油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火する。

##### 浴室

浴室からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。徐々に戸を開けて一気に消火する。

##### 石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけると石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火する。

##### 電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーをおろす)消火する。

##### 衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

##### カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。カーテンは引きちぎり、ふすまや障子は蹴り倒して火元を天井から遠ざけてから消火する。

#### 3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、すみやかに避難する。
- ハンカチなどで鼻や口を押さえ、できるだけ低い姿勢で避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を断つ。

## 竜巻対策

発達した積乱雲からは、竜巻、ダウンバーストといった、激しい突風や雷をもたらす現象が発生します。竜巻は、積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、漏斗(ろうと)状または柱状の雲を伴います。直径は数十～数百mで、数kmに渡って移動し、被害地域は帯状になる特徴があります。

### 竜巻注意情報(気象庁)

<https://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>



「竜巻」が間近に迫ったら…絶対に近づかないようにしましょう!!

#### 屋内では

- 窓やカーテン、雨戸やシャッターを閉める。
- 窓から離れる。
- 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。
- 家の1階の窓の少ない部屋に移動する。

#### 屋外では

- 頑丈な建造物の物陰に入って、身を小さくする。
- 物置や車庫、プレハブの中には入らない。
- 電柱や太い木には近づかない。

## 雷対策

「雷」から身を守るには…  
遠くで音がしたらすでに危険です!

- グラウンドやゴルフ場、海の上などの開けた場所や、山頂などの高いところは危険です!
- 電柱、鉄塔、高い木などの高い物の近くは危険! 2m以上は離れ、近づかないようにしましょう!
- 姿勢は低く、持ち物は体より高くしないようにしましょう!
- 雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な場所へ移動しましょう!

### 雷ナウキャスト(気象庁)

<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>



## 大雪対策

大雪が発生した場合、雪崩、除雪中の転落事故などの災害のほか、路面凍結などによる交通事故や歩行中の転倒事故などが発生するおそれがあります。雪に対する正しい知識を深めることが大切です。

### 除雪作業の注意点

雪かきスコップなどの除雪用具を用意しましょう。また、作業中は転倒や屋根雪の落下に注意しましょう。市は、所管する幹線道路を中心に、除雪作業を行います。

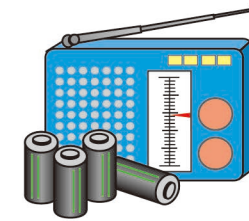
住民の皆さんは、**自助・共助の精神**に基づき自宅付近の除雪を行うなど通行の確保、孤立・閉じ込め状況の解消に協力してください。ただし、**除雪した雪は事故やケガの元になりますので、道路に出さないでください。**



## 非常時持出品(例)

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

### 携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

### 救急医療品



- 救急セット
- 常備薬(持病の薬等)

### 感染症対策

- マスク
- 手指の消毒液
- 体温計

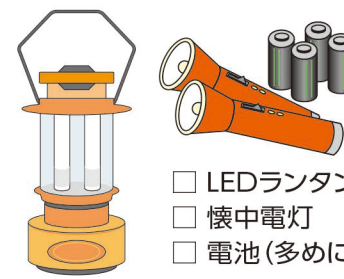
### 非常食品



火を通さないで食べられるもの

- 飲料水
- 乾パン
- 缶詰
- アルファ米
- 飴・チョコなど

### ライト類



- LEDランタン
- 懐中電灯
- 電池(多めに用意)

### その他



- 現金(小銭多めに)
- ホイッスル(助けを呼ぶため)
- 着替え
- ウェットティッシュ
- 歯ブラシ
- 現金(小銭多めに)
- モバイルバッテリー
- タオル
- ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
- スマホ・携帯電話の充電器
- モバイルバッテリー
- 紙皿・紙コップ
- 新聞紙
- ポリ袋
- 耳栓・アイマスク
- 割りばし
- 歯ブラシ
- 入れ歯や補聴器
- リュックサック

各家庭に必要なもの

## 非常時備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低限3日、推奨7日)を生活できるようにしましょう。

### 飲料水



- 飲料水(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水したタンクなど

### 非常食品



- お米(アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・飴・チョコ(菓子類など)

### 燃料



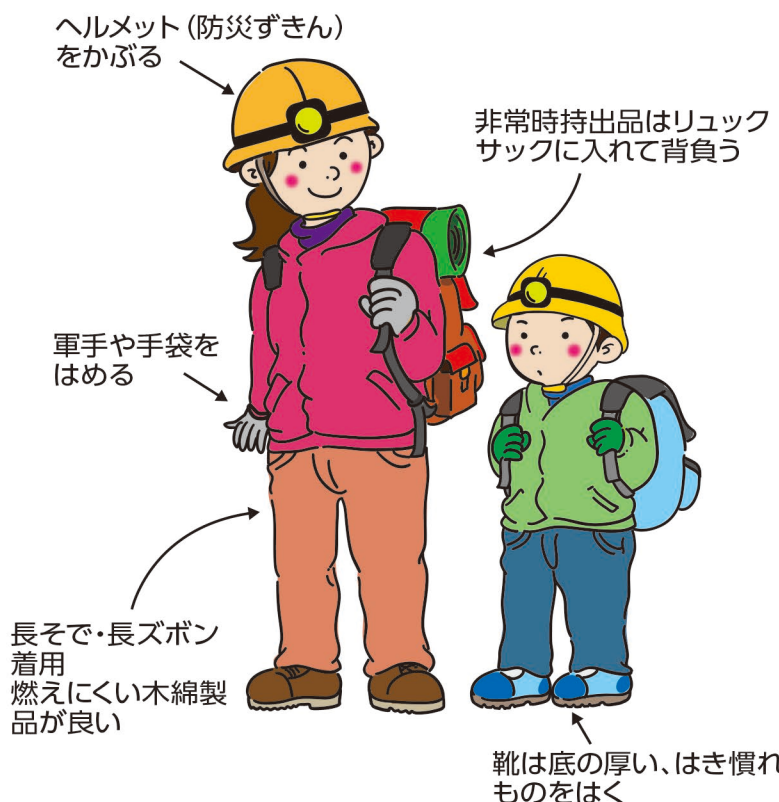
- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

### その他



- 生活用水(風呂などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具など
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- パケツ・各種アウトドア用品など
- 歯みがきセット・ひげそりなど

## 避難するときはこんな格好で



## 帰宅困難に備えよう

昼間、大地震が発生した場合、交通機関の途絶によって自宅に戻れない「帰宅困難者」になる可能性があります。勤務先や学校から徒歩で帰宅することを想定し、日ごろから準備しておきましょう。

### 防災グッズを用意する

携帯ラジオ、ヘルメット(防災ずきん)、スニーカー、非常食品、懐中電灯、革手袋、地図、寒暖対策用品など。

### 帰宅地図を用意する

災害の状況によっては、道路が通行不能になる場合もあるので、複数の帰宅ルートを決めておくとういでしょう。

### 家族との連絡方法を決めておく

地震が発生すると、家族や親戚とは簡単に連絡をとることができません。事前に以下のような項目に関して、家族全員で確認しておくことが重要です。

- 災害時の安否確認の方法
- 家族の集合場所
- 徒歩帰宅する場合のルート

